令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第四中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・可能な限り実験や観察を行うことができた。

(2) 課題

- ・実験を考察する場面をさらに多く取り入れる必要がある。
- ・さらなる知識の定着を、小テストなどを用いながら図る必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	基礎は平均とほぼ同値、活用は平均を上回っている。また、思考・判断・表現の正答率が高い。		
第2学年	基礎の得点率が低く、中でも生命分野の正答率が低い。また、記述問題の正答率が低い。	基礎・活用ともに平均よりもやや下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	活用に関しては、目標値を大きく上回っている。また、地球分野の正答率が高く、全体的に正答率がよい傾向にある。	目標値とほぼ同じ程 度である。今年度は、応 用よりも基礎の分野の 問題正答率が良い傾向 がある。(第2学年時)	目標値とほぼ同じ程 度である。基礎よりも応 用の分野の問題正答率 が良い傾向がある。 (第1学年時)

(2) 分析(観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が	校内平均正答率が	意欲的に学習する態度が見
目標値を下回っている。	目標値とほぼ同じである。	られる。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が	校内平均正答率が	取り組む姿勢が、二分化させ
目標値を下回っている。	目標値を下回っている。	ている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率が	校内平均正答率が	意欲的に学習する態度が見
目標値とほぼ同じである。	目標値を上回っている。	られる。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識•技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度 「物質・エネルギー」に関す 目標値とほぼ同値であっ 学年全体が理科への関心 る問題では正答率が低い傾 た。実験を行う前に実験方法 が高く、特に実験へ意欲的に 向が見られた。「生命・地球」 感じる。そのため、与えられ を検討・提案する授業を取り に関する問題では目標値と た実験をこなす授業から、生 入れていきたい。 ほぼ同値であった。くり返し 検討や提案の方法につい 徒が考えた方法を少しでも 問題演習などを行うことに ては指導に時間をかけてい 多く取り入れる授業を展開 より定着を図る。技能は引き することで、生徒の主体性を く。 続き実験を中心に指導をす 養いたい。 る。

(2) 第2学年

(2) 第2子干		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「エネルギー」「生命」に関	目標値とほぼ同値であっ	学年全体が理科への関心
する問題では正答率が低い。	た。実験を行う前に実験方法	がやや低いが、特に実験へ意
くり返し問題演習などを行	を検討・提案する授業を取り	欲的に感じる。そのため、与
うことにより定着を図る。技	入れていきたい。	えられた実験をこなす授業
能は引き続き実験を中心に	検討や提案の方法につい	から、生徒が考えた方法を少
指導をする。	ては指導に時間をかけてい	しでも多く取り入れる授業
	< ∘	を展開することで、生徒の主
		体性を養いたい。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「生命」「地球」に関する問	実験を行う前に実験方法	学年全体が理科への関心
題では高い正答率が見られ	を検討・提案する授業を取り	が高く、特に実験へ意欲的に
たが、「粒子」に関する問題	入れていきたい。	感じる。そのため、与えられ
ではやや正答率が低い。くり	検討や提案の方法につい	た実験をこなす授業から、生
返し問題演習などを行うこ	ては指導に時間をかけてい	徒が考えた方法を少しでも
とにより定着を図る。技能は	<.	多く取り入れる授業を展開
引き続き実験を中心に指導		することで、生徒の主体性を
をする。		養いたい。